

夢の復興・江戸・都の水

週刊 首都圏

「新旧名所、舟めぐり」

江戸は人も物も舟で行き交う「舟運都市」だった。それが東京と呼ばれるようになって、高い護岸や水門に隔てられて生活から川が切り離されていった。たまには舟に揺られるながら、心と暮らしを潤す水辺を見つめ直してみたい。日本橋と東京スカイツリーという東京の新旧の名所で、舟運を復興する構想が現実味を帯びてきつつある。(辻岡大助)

東京・日本橋を12人乗りのボートがくぐる。

現在の石橋は1911年建造の20代目。東京大空襲で受け焼夷弾の痕跡も残ります。

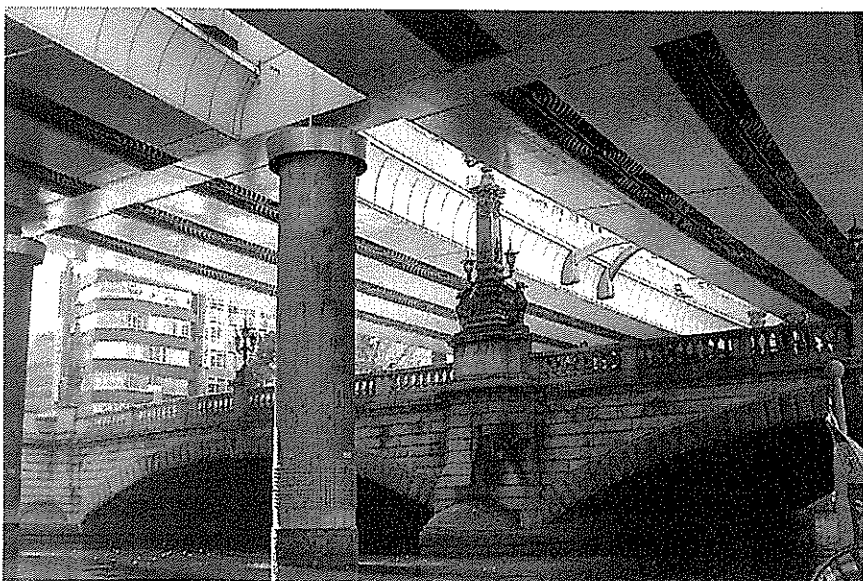
ガイド役の女性が案内する。

日本橋地区の常盤橋の近くから日本橋川を航行し、17の橋をくぐる約5kmの「お江戸日本橋舟めぐり」は2009年9月に始まった。不定期運航で、これまで約90回を数えるという。地元企業やNPOが中心になって運営している地域振興団体「江戸東京再生局」の「お江戸日本橋」の試みだ。

ボートは電動式。8時間の充電で半日、航行できる。環境負荷の小さい循環型社会だった江戸にならうという。

「舟めぐり」は観光舟運の集客力を測る実証実験を兼ねる。「毎回満席で、手応えは十分」と、コンソーシアム事務局長の伊藤一正さん(58)は話す。

日本橋の景観再生は半世紀にわたる地元住民の悲願だ。



電気ボートから望む日本橋。川の真ん中に首都高速の巨大な橋脚が林立し、橋梁(きょうりょう)が覆いかぶさる=東京都中央区の本橋川

1603年に徳川家康が幕府を開いたころにできた日本橋は東海道など五街道の起点となり、町は魚河岸が開かれるなど江戸の物流基地となった。

しかし、「漕べあり、浮びたのしめるあり、舟がかりするありて、広き河中も見えざるが如し」と江戸時代後期の「遊歴雜記」が伝えた舟運隆盛の面影は今はない。

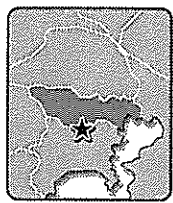
東京五輪前年の1963年に橋をまたぐように首都高速道路が建てられ、空を覆い隠した。川にそって舟を向くようにビルも立ち並んだ。「ここは川があったの」と驚く小学生もいる始末です。1984年創業の老舗「山本海苔店」の副社長山本泰人さん(61)は嘆く。

転機は06年に訪れた。国の有識者会議が首都高の地下移設を提言。地元企業や住民が「日本橋再生推進協議会」を立ち上げた。山本さんはその水辺再生研究会の会長を務める。「江戸時代から続いた舟運を復活させることで水辺の価値を見直し、橋の再生につなげたい」

日本橋を抱える東京都中央区

街のシラシラ

町田市(東京都)



市の表玄関だった旧国鉄の「原町田」駅から「原」が取れ、小田急と同じ「町田」に駅名が変わった1980年が、この街の大きな転機でなかったか。以来30年、人口は当時の1.4倍、約42万人まで増えた。

町田駅周辺は今、隣接する八王子市や神奈川県相模原市まで商圏に取り込み、大変な賑わいを見せる。駅前には10を越す大型ショッピングビルが林立し、すべてが高架歩道で結びついているさまは何とも壮観だ。

地元の大学に通う学生など、若者相手の店も、古くからの商店街に自然な感じで溶け込んでいる。「目移りするくらい店があるけど、全体が手ごたえなサイスでちょうどいい感じ。新宿や渋谷に出ると、疲れちゃって」との声にはリアリティーがあった。

商業を中心にした成長を遂げてきた街だが、そこは多

駅名から消えた「原」の価値

摩エリア。都心部と違って超高層の建物がなく、土地も広いから、圧迫感を与えない。駅から10分も歩くと、もう古くからの住宅地で、落ち着いた雰囲気がある。農業も相変わらず盛んだ。

そこへ近ごろ、規制が強化された新宿周辺から風俗店が進出し始め、西の歌舞伎町などという、ありがたくない呼称がついて回るようになってしまった。

「原町田」の時代からこの地に暮らす人たちは、そうした現状に不安と不満をつのらせる。多くの人でにぎわう「町」も、いかに「原」のよさを記憶の中にためておくだけではないか。そんな思いもあるのではないだろうか。

(出版プロデューサー) 岩中祥史

次は神奈川県茅ヶ崎市です。

存在感 ★★★

住みやすさ ★★★

満点は 星5つ

都心のふるさと

新宿みやぎ館KONNE



人気の郷土食は まかない発

都も06年、舟運ネットワークの構想を発表している。約30年後の将来像として隅田川から羽田空港に至るルートを描き、横浜や東京ディズニーランドといった東京湾岸の観光地を結ぶ航路も検討課題に挙げた。船着き場を整備して普段から使っていれば、災害時に人や物資の輸送に使えるとの発想もある。

構想作りに協力した法政大学デザイン工學部の陣内秀信教授(建築史)は「東京の最大の財産は水のネットワーク。水とのつながりによって歴史を刻み、産業と文化をはぐくんできた」と強調する。

80年代から都内の河川や運河

航路網築き景観守れ

をボートで巡り、水辺を起点に置く街づくりを唱え続けてきた。長年のフィールドワークで、東京がかつてベネチアやムステルダム、バンコクなどにみひけを取らない水の都だったことを浮かび上がらせた。

陣内教授はスカイツリーからの眺めを想像し、網の目のように水路が巡る江戸時代の鳥瞰図と重ね合わせてみる。東京の水源地から、上水や池、内堀、外堀をめぐって東京湾に注ぐ水の循環が見えてくるのでは。

「かつてのように舟で町をつなげば、みんなが水辺の景観を大切にしなければならぬと思うでしょ」

運ネットワークに広げていきたい、と思い描く。

あなたが夢ではない。高さ634mの新名所・東京スカイツリーの2年後の完成に合わせ、おひき元の東京都墨田区は、たもとを流れる北十間川で観光舟運を始めることを計画している。ツリーと浅草は目と鼻の先。隅田川を挟んで1km。同区と川でつながる隣の江東区も、ツリーの客を江戸情緒の残る深川地区に呼び込もうと、墨田区との検討の場をつくらせている。

●数字でわかる1都7県 河川旅客船航路の数

山梨県 0	栃木県 1
群馬県 1	茨城県 1
埼玉県 1	東京都 9
神奈川県 1	千葉県 1

(2010年1月1日現在。関東運輸局調べ) The Asahi Shimbun

アンテナショップブームの火付け役ともいわれる「新宿みやぎ館KONNE」には、休日になると5千人以上が訪れる。「宣旨のすべてを紹介したい」と県物産貿易振興センターの日高大介さんは話す。1階には食品と軽食、2階には工芸品と焼酎、観光案内のコーナーがあり、約800の食品と約50の工芸品がそろっている。人気は、地鶏の地頭鶏などを使った炭火焼売している。

◆東京都渋谷区代々木2-2-1、03-5333-7764